



# 未来へつなごう！ 京都の生物多様性



## 第1章

◆ 生物多様性について

◆ 「京都市生物多様性プラン」

に基づく京都市の取組

## 第2章

◆ 和の花を育てる3

ショウジョウバカマ クリンソウ オミナエシ

## 第1章

---

### 生物多様性について ..... 1

### 「京都市生物多様性プラン」に基づく京都市の取組

- みやこ京・生きものミュージアム ..... 2
- 京都市生物多様性保全活動登録制度 ..... 3
- みやこ京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度 ..... 4
- 京都生きもの100選 ..... 6
- 親子生きもの探偵団 ..... 6
- まちかど生きもの観察記 ..... 8
- 普及啓発イベントの開催 ..... 8
- 普及啓発資料の発行 ..... 9
- 京都水族館の取組 ..... 10
- 京都市動物園の取組 ..... 12
- 洛西ニュータウンの魅力あるまちづくり ..... 14

## 第2章

---

### 和の花を育てる3 ..... 16

- ショウジョウバカマ ..... 18
- クリンソウ ..... 22
- オミナエシ ..... 28

# 生物多様性について

## はじめに

京都市では、京都ならではの自然環境や伝統文化を後世に受け継いでいくため、目指すべき生物多様性保全の方向性を示す「京都市生物多様性プラン～生きもの・文化豊かな京都を未来へ～」を平成26年3月に策定し、様々な取組を進めています。

## 生物多様性とは？

地球上の生きものは、生命が誕生して以来、様々な環境に適応して進化してきました。現在、地球上には3,000万種ともいわれる多様な生きものがいて、同じ種の生きものでも個性に違いがあります。これらの生きものは長い年月をかけてお互いにつながりあい、支え合って生きています。

このような「生きものたちの豊かな個性と生きもの同士のつながり」のことを生物多様性<sup>\*</sup>といいます。

※生物多様性の定義

生物多様性条約では、「生物多様性」を、全ての生きものの中に違いがあることと定義し、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性という3つのレベルでの多様性があるとしています。



## 生物多様性の危機

私たち人間の活動が、生きものの絶滅スピードを約1000倍に加速させている<sup>\*</sup>といわれています。地球規模で生物多様性が損なわれつつあり、取り返しのつかない事態を招くおそれがあるとの危機感が世界中で共有され、生物多様性を守る取組が始まっています。

※出典 平成27年版環境白書(環境省)

# 「京都市生物多様性プラン～生きもの・文化豊か

## 京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～

京都の歴史や伝統文化を育んできた生物多様性について、市民の皆様へ理解を深めていただくとともに、生物多様性保全活動の輪が本市全体に広がるよう、市民、活動団体、事業者など多様な主体を結び付ける役割を担うことを目的として、生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～」を開設し、生物多様性に関する様々な情報を配信しています。

本市や様々な団体が主催するイベント情報や皆様から寄せられた生きもの発見報告などを掲載していますので、是非、御覧ください。

京都市  
からの  
お知らせ



最新の  
イベント  
情報

皆様から  
寄せられた  
最新の生きもの  
発見報告

<http://ikimono-museum.com/>



# 「な京都を未来へ〜」に基づく京都市の取組

## 京都市生物多様性保全活動登録制度

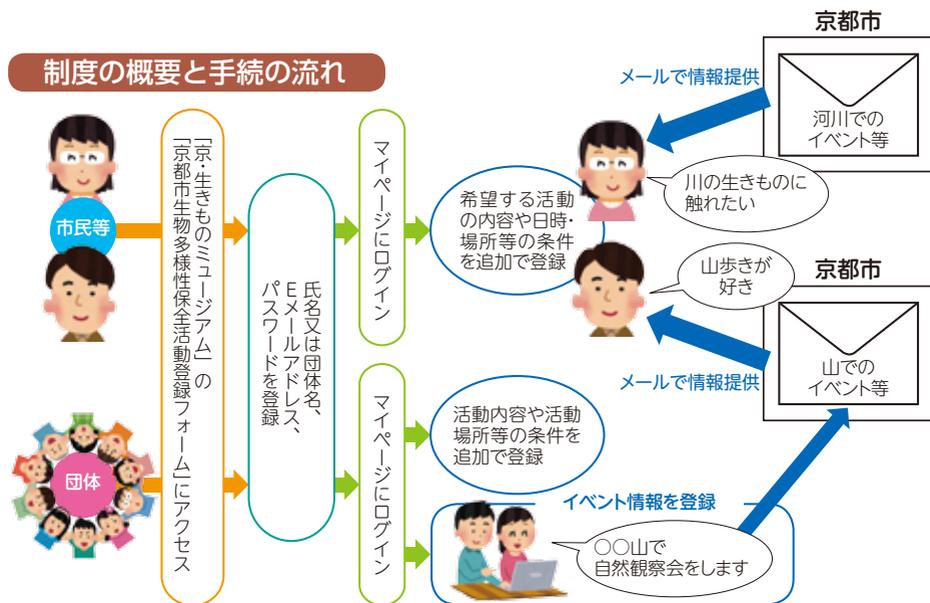
生物多様性保全活動が効率的かつ効果的に行われることを目的として、生物多様性保全活動に参加を希望する市民の皆様と、市民の皆様の協力を希望する保全活動団体を結び付ける「京都市生物多様性保全活動登録制度」を創設し、運用しています。登録の受付や制度の運用は、「京・生きものミュージアム」<sup>みやこ</sup>において行っています。

登録することにより、市民の皆様や団体は、生物多様性関連イベント等の情報をメールで受け取り、参加したいイベント等を見つけることができます。また、団体は、開催するイベント等の情報を「京・生きものミュージアム」に掲載し、広く参加者を募ることもできます。

「生物多様性保全のために何かしたい!」「自分にできることはなんだろう?」と思われた方は、是非とも、本制度に登録してください。

登録はこちら【<http://ikimono-museum.com/conservation/>】

### 制度の概要と手続の流れ



## 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度

京都の祭りや文化を支えてきた生きものの保全・再生のための取組を認定し、必要に応じて技術的な支援のための専門家を派遣する「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」を創設し、京都ならではの自然環境や伝統文化を後世に受け継ぐための取組を推進しています。

制度について、詳しくはこちらを御覧ください。

【<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000187608.html>】

### 認定状況

平成26年9月の創設以降、10件のプロジェクトを認定し、104団体が、フタバアオイやフジバカマをはじめとする生きものの保全・再生に取り組んでいます（平成28年2月末現在）。

#### 第1号認定 京都水族館

##### 〈取組内容〉

チマキザサ及びフタバアオイを取り入れた展示、葵祭への提供等



フタバアオイの展示

#### 第2号認定 日新電機株式会社

##### 〈取組内容〉

生物多様性に配慮した緑地の新設・整備



新設・整備した緑地

#### 第3号認定 特定非営利活動法人

##### 〈取組内容〉 KES環境機構

KES登録事業所のうち、96事業所におけるフタバアオイ及びフジバカマの育成、

葵祭への提供



事業所で育成しているフジバカマ

#### 第4号認定 株式会社京都放送

##### 〈取組内容〉

自社敷地内で育てた原種のフジバカマの展示等



「和の花展」でのフジバカマの展示

**第5号認定 株式会社洛西ガーデン**

〈取組内容〉

自社敷地内の農園でのフタバアオイの育成及び松尾大社の還幸祭への提供



育成したフタバアオイの松尾大社への奉納

**第6号認定 特定非営利活動法人**

〈取組内容〉 **伏見クラブ**

集合住宅内の緑地でのフタバアオイ等の育成，展示及び葵祭への提供



フタバアオイ等を育成している緑地

**第7号認定 株式会社松栄堂**

〈取組内容〉

希少植物の育成・保護及び店頭での公開



希少植物の店頭公開

**第8号認定 松尾学区自治連合会**

〈取組内容〉

自治連合会が管理する公園でのフタバアオイの育成及び松尾大社の還幸祭への提供



育成中のフタバアオイ

**第9号認定 三菱自動車工業株式会社**

〈取組内容〉 **パワートレイン製作所**

自社敷地内でのフタバアオイ，ヒオウギ及びフジバカマの育成，葵祭への提供



植付けの様子

**第10号認定 特定非営利活動法人**

〈取組内容〉 **KES環境機構**

KES登録事業所のうち，35事業所におけるヒオウギ及びキクタンギクの育成



事業所で育成しているヒオウギとキクタンギク

認定済みのプロジェクトはこちらを御覧ください。

【<http://ikimono-museum.com/column/culture/>】

## 京都生きもの100選

2,600人を超える市民の皆様の投票により、市内の身近な自然に関する情報を、①生きものやその生息・生育場所、②生息環境保全の取組、③観光や伝統文化を支える生物多様性の情報の3つの区分に分けて、「京都生きもの100選」として初めて取りまとめ、「京・生きものミュージアム」等で紹介しています。

(一例)



深泥池



カヤネズミの保護活動(桂川)



京都御苑

詳しくはこちらを御覧ください。【<http://ikimono-museum.com/>】

## 親子生きもの探偵団

京都市の生物多様性を学び、保全に向けて行動する人を育てる環境教育・普及啓発の一環として、親子を対象にした自然観察会「親子いきもの探偵団」を、平成26年度からこれまでに8回開催し、延べ307名に参加いただきました(平成28年2月末現在)。参加した児童とその保護者は、多様な生きものとの触れ合いを通して、楽しみながら生物多様性について学ぶことができました。今後も、引き続き、市内の様々な場所で開催しますので、是非、御参加ください。

### 平成26年度

#### 第1回親子生きもの探偵団 京都御苑

開催日：平成26年7月28日(月) 参加者数：39名

内容：アオバズクが食べ残したセミのはねなどを観察し、食を通じた生きものたちのつながりなど貴重な生態を学びました。

#### 第2回親子生きもの探偵団 深泥池

開催日：平成26年8月11日(月) 参加者数：29名

内容：深泥池で水生昆虫などを採集し、顕微鏡を使い詳しく観察しました。

#### 第3回親子生きもの探偵団 野鳥の森・探鳥路～法然院森のセンター

開催日：平成26年10月26日(日) 参加者数：38名

内容：野鳥の森で野鳥、琵琶湖疏水で魚などの生きものを観察しました。

### 第1回親子生きもの探偵団 京都水族館（詳細は10ページ）

開催日：平成27年5月24日（日） 参加者数：47名

内容：餌やりの見学などを通して、オオサンショウウオの生態を学ぶとともに、「京の里山ゾーン」で観察した生きものの解説を受けることにより、人と生きもののつながりを実感することができました。

### 第2回親子生きもの探偵団 京都御苑

開催日：平成27年7月29日（水） 参加者数：39名

内容：アオバズク、カエル、トンボや様々な植物などの観察を通して、都市の中心にある京都御苑が生きものにとって重要なすみかとなっていることを知ることができました。

### 第3回親子生きもの探偵団 洛西ニュータウン（詳細は15ページ）

開催日：平成27年8月3日（月） 参加者数：37名

内容：小畑川で水生生物の生態等を観察した後、洛西竹林公園で竹の種類や特徴を学ぶとともに、竹を使った工作を通して、自然の恵みやその大切さを体感しました。

### 第4回親子生きもの探偵団 京都市動物園（詳細は13ページ）

開催日：平成27年8月13日（木） 参加者数：38名

内容：園内の噴水池や「京都の森」でのアメンボやオタマジャクシ、トンボなどの観察を通して、池や田んぼ、水路など、環境によって生息する生きものが異なっていることを学びました。

### 第5回親子生きもの探偵団 桂川

開催日：平成27年10月10日（土） 参加者数：40名

内容：河川敷に生息する希少なカヤネズミの巣の観察などを通して、桂川の自然環境の現状を理解することができました。



京都御苑での様子



桂川での様子

## まちかど生きもの観察記

平成 27 年度は、子供たちが本市の豊かな自然に触れ、生きものつながりの大切さなどについて理解を深められるよう、身近なまちかどで発見した生きもの情報を作品にした「まちかど生きもの観察記」を募集し、121 点の作品を応募いただきました。その中から、特に優れている 19 点を表彰し、ゼスト御池で入賞作品の展示を行いました。この「まちかど生きもの観察記」は、作品の形態を地図に限定していた従前の「まちかどいきものマップ」を発展させ、絵画や観察日記なども対象に含め、応募者がより自由な作品作りに取り組めるようにしたものです。



最優秀作品(個人の部)



最優秀作品(団体の部)



入賞作品展示の様子

## 普及啓発イベントの開催

市民や事業者等の皆様との共汗により、生物多様性保全活動の輪が広がることを目的とした「生物多様性セミナー」の開催や、京都市の施策や事業等について、担当部署の職員が市民の皆様の身近な場所に直接出向いて説明を行う「京都市政出前トーク」のほか、外部主催の勉強会等も活用し、生物多様性保全のための普及啓発を積極的に推進しています。



平成27年度京都市生物多様性セミナーの様子

## 普及啓発資料の発行

### 生物多様性保全のために できることがあります!〔チラシ〕

生物多様性について分かりやすく解説するとともに、生物多様性保全のために、日々の生活の中でできる取組を紹介しています。

(平成26年10月発行)



### 生物多様性保全の取組について 〔チラシ〕

市民や事業者の皆様に参加していただける生物多様性保全の取組を紹介しています。

(平成27年1月発行)



### 京都市生物多様性プラン 推進のために〔冊子〕

京都市生物多様性プランの概要とリーディング事業に加え、京都の暮らしの中で利用され、親しまれてきた植物についても紹介しています。

(平成27年1月発行)



### まんが読本「考えてみよう! 私たちと生き物とのかかわり」

児童自らが、生きもののつながりの大切さや、京都らしさを支える豊かな自然などについて考えることができる内容となっています。

(平成27年5月発行)



### 平成27年度版 <sup>みやこ</sup>京の生きもの発見ガイド 〔冊子〕

街中で見られる生きものが持つ興味深い特徴など、市内で見られる多種多様な生きものの生態を紹介しています。

(平成27年7月発行)



### 京都の社寺と生物多様性(第1号) 〔冊子〕

京都ならではの自然環境を形づくる重要な要素である、社寺林や庭園の多様な生きものを紹介しています。

(平成27年12月発行)



## 京都水族館の取組

### 京都市と京都水族館の連携

京都市と京都水族館は、自然観察会などを通じて、京都市の生物多様性の保全を図るため、連携して活動しています。



### 平成27年度第1回親子生きもの探偵団

平成27年5月24日に開催した「親子生きもの探偵団」では、京都水族館の下村館長、關副館長に講師を務めていただき、47名の小学生と保護者の方々に、水族館の生物多様性保全の取組を体感していただきました。まずは、水族館で生息域外保全を行っている、オオサンショウウオへの餌やりなどを見学しました。次に、バックヤードツアーとして、大水槽の上の通路（キャットウォーク）や、人工海水のろ過システムなど、普段は見ることのできない水族館の裏側を、特別に見せていただきました。最後に、京の里山ゾーンでは、水辺で生きもの観察を行いました。水族館の講師の方々には、子供たちが見つけた様々な生きものの生態や、人と生きものをつながりなどを解説していただきました。



## 地域生きもの探偵団\* (上賀茂小学校編)

平成 27 年 7 月 11 日に開催した「地域生きもの探偵団」では、京都水族館から下村館長と關副館長を講師としてお招きしました。上賀茂神社の境内を流れる「ならの小川」での水生生物を主とした生きもの観察に、上賀茂小学校の児童 82 名が参加しました。子供たちは定置網の設置を見学し、たも網による調査や投網の体験を行いました。水族館の講師の方々には、捕まえた生きものについて、単に生きもの名前だけではなく、生きもの外見（模様など）の特徴や、どんな自然環境がないと生息できないか等を丁寧に説明していただきました。



## 地域生きもの探偵団\* (境谷小学校編)

平成 27 年 10 月 13 日に開催した「地域生きもの探偵団」では、7 月 11 日と同様、水族館から下村館長と關副館長を講師としてお招きしました。洛西ニュータウン内を流れる小畑川での水生生物を主とした生きもの観察に境谷小学校の 5 年生 37 名が参加しました。講師の方々の指導のもと投網の体験を行った後、子供たちは小さな網を手にとり生きものを調査し、オイカワ、サワガニ、カワニナなど多様な生きものを見つけることができました。また、講師の方々からは、小畑川で見つけた金魚を題材に、生態系への影響などを分かりやすく説明していただきました。



※地域生きもの探偵団

市内の小学校・児童館が授業等で実施する生きもの観察に、本市が専門家を派遣し、児童に多様な生きものたちのつながり等について学んでいただく取組です。

---

## 京都水族館の里山教室

京都水族館では、稲の成長や周りの木々、生きものたちの変化を通じて季節の移り変わりを体感することができる「京の里山ゾーン」で、田植え体験や稲の収穫体験などに加え、田んぼやその周りにすむ生きものを観察し、里山と人と生きもの関わりについて季節の移り変わりを通して学ぶプログラム「京都水族館の里山教室」が実施されています。

## 京都市動物園の取組

京都市動物園では、絶滅のおそれのある野生動物（ツシマヤマネコやイチモンジタナゴなど）の飼育下繁殖を通して種の保全に取り組んでいるほか、ラオスとの国際共同プロジェクトに基づき、生息地におけるアジアゾウの保全に向けた取組も進めています。

また、平成27年にオープンした「京都の森」を、環境教育の実践ゾーンとして活用しています。



### 京都市動物園におけるゾウの繁殖プロジェクト

平成26年11月17日に、ラオスから子ゾウ4頭（オス1頭、メス3頭）が寄贈され、アジアゾウの繁殖・生息域外保全に向けた研究を行っています。また、平成27年度から、ラオスとの人的交流を行っており、今後は、京都市動物園におけるゾウの飼育、繁殖及び研究の成果をラオス国内に還元することにより、生息域内の保全活動も推進していきます。



### 「京都の森」

京都の豊かな自然を伝え、ヒトと野生動物の関わりが学べる場として、身近な自然に関する情報を展示・提供し、地域の自然環境保全に貢献するとともに、希少淡水魚類の保全・繁殖を行っています。



## 平成27年度第4回親子生きもの探偵団

平成27年8月13日に開催した「親子生きもの探偵団」では、京都市動物園の職員が講師を務め、38名の小学生と保護者の方々に参加していただきました。

最初に、外来種の駆除体験として、噴水池でザリガニ釣りを体験し、74匹のアメリカザリガニを捕まえました。噴水池では、ほかにもスジエビやコマツモムシ、アメンボなどの生きものを見つけることができました。

その後は、「京都の森」に移動し、田んぼや水路で、オタマジャクシやバッタ、トンボなどを見つけました。また、動物園職員からゲンジボタルを復活させる取組の説明を受けました。この取組では、ゲンジボタルの幼虫の餌となるカワニナを放流し定着させて、ゲンジボタルが生息するような環境を目指しています。

今回の生きもの観察等を通して、多様な生きものに触れることで、子供たちにも生きものつながりを実感してもらうことができました。



京都精華大学人文学部板倉ゼミ及び平成27年度京都市動物園博物館実習生に御協力いただきました。



## 洛西ニュータウンの魅力あるまちづくり

洛西ニュータウンは「緑豊かな川のあるニュータウン」をコンセプトに建設されました。ニュータウン内を流れる小畑川を中心に、25の公園に様々な種類の樹木を植樹するなど、地域コミュニティが一体となって、生物多様性豊かなまちづくりが進められています。

### 生物多様性まちづくり宣言

「洛西ニュータウンまちづくり交流フォーラム」(平成27年3月14日)において、洛西ニュータウン創生推進委員会\*と4学区・地域自治連合会が、様々な生きものがすむ豊かな自然に恵まれたニュータウンの魅力を広く発信し、次世代へと引き継いでいくため、地域一体で生物多様性豊かなまちづくりを進めていくことを宣言されました。

#### 宣言書

緑あふれる京都西山のふもと、豊かな自然に囲まれた私たちのまち

「洛西ニュータウン」

様々な生きものが共生する小畑川

多くの野鳥や草花と出会う数々の公園

四季折々に姿を変え、人々を魅了する街路樹

ニュータウンにして類い稀な自然環境は

ここに暮らす人々とともに多様な「いのち」を育んでいます。

私たちはすべての人が自然の恵みに浴しながら暮らすことができる

魅力的な洛西ニュータウンに誇りをもち

住みよいまち、子どもたちが生き生きと育つまちとして

広く発信するとともに、この自然環境を次世代へと引き継いでいくため

生物多様性豊かなまちづくりを進めていくことを

ここに宣言します。

平成27年3月14日

洛西ニュータウン創生推進委員会

新林区区自治連合会

境谷学区自治連合会

福西自治連合会

竹の里地域自治連合会

※洛西ニュータウン創生推進委員会

「緑とゆとりを守り、各世代が支えあい心豊かに共生できるまち」の実現に向けて、住民が主体となって洛西ニュータウンのこれからのまちづくりを推進する組織として平成19年6月に発足しました。

洛西ニュータウン4学区・地域の自治連合会、ラクセーナ商店会、ホテル京都エミナース、洛西ケーブルビジョン株式会社、京都市住宅供給公社、洛西ニュータウン病院、西京区役所洛西支所の各代表が委員を務めています。

活動について、詳しくはこちらを御覧ください。【<http://www.rakusainewtown.org/>】

## 楽祭inらくさい【主催:洛西ニュータウン創生推進委員会】

毎年秋に洛西ニュータウンの緑豊かな自然や、子育て環境に優れた住みよいまちの魅力を発信することを目的としたイベント「楽祭 inらくさい」が開催されています。このイベントに本市も参画し、生物多様性に関するパネルの展示や、きょうと動画情報館配信の動画「知っていますか？ 生物多様性」の再生を通じて、生物多様性保全について普及・啓発を行っています。

## 親子生きもの探偵団及び地域生きもの探偵団

洛西ニュータウンの豊かな生物多様性を学ぶことを目的に、親子生きもの探偵団を1回（平成27年8月3日）、地域生きもの探偵団を2回（平成27年9月4日及び10月13日）開催しました。

～平成27年度第3回親子生きもの探偵団～

平成27年8月3日開催の、「親子生きもの探偵団」では、37名の小学生と保護者の方々に参加していただきました。最初に、京都精華大学の板倉教授を講師として、小畑川で水生生物を観察しました。子供たちは、川の石の下など意外な場所から様々な生きものを発見し、講師の先生に詳しく解説していただきました。次に、洛西竹林公園に移動し、洛西竹林公園の渡邊専門員を講師として、竹の種類や特徴について解説していただくとともに、竹を使った工作（笛作り、竹トンボ作り）を通して、自然の恵みやその大切さを体感しました。



## 生物多様性啓発特別番組の制作【制作:西京区役所洛西支所】

洛西ニュータウンの豊かな自然環境を紹介する生物多様性啓発特別番組「洛西いきものグラフィティ」を制作し、洛西地域のケーブルテレビで放映しています。洛西ニュータウンの様々な樹木、草花、生きもののほか、小学校の環境学習の様子等も紹介しています。

# 和の花を育てる

## 3



シヨウジヨウバカマ

クリンソウ

オミナエシ

コラム お能に登場する植物

和の花の取組紹介

制作協力 :  公益財団法人  
京都市都市緑化協会 GREENERY ASSOCIATION

 第2章は、公益財団法人京都市都市緑化協会の監修で制作しました。  
平成26年3月に同協会が発行した「和の花を育てる1」、  
平成27年1月に発行した「和の花を育てる2」の続編となっています。

※写真はオミナエシの花序

## はじめに

かつて京都の暮らしの中で利用され、身近に親しまれてきた植物は、生活様式や都市・森林の環境の変化などにより失われつつあります。

このような京都ゆかりの植物について知っていただこうと、これまで、冊子「和の花を育てる1」（平成26（2014）年3月発行）で、エイザンスミレ、フタバアオイ、オケラ、フジバカマの4種を、「和の花を育てる2」（平成27（2015）年1月発行）で、キキョウ、ヒオウギ、キクタニギフの3種を紹介しました。

今回は、古くから文学などで親しまれながら、現在では私たちの暮らしの中で身近に触れることが少なくなってきた、ショウジョウバカマ、クリンソウ、オミナエシの3種を取り上げています。これらの植物の名前の由来などに注目し、植物と人との豊かな創造性について紹介していきます。

### 植物に接する際のマナー

野生植物を絶滅に追いやる主な原因の一つは、園芸目的の乱獲といわれています。

「美しいから、かわいいから」といって、野山から植物を持ち帰らないようにしましょう。

山野草は種から花を咲かせるまでに、カタクリやレブンソウなど長いもので10年程度かかるものもあります。また、掘り起こして持ち帰っても、そのほとんどは根づかず枯れてしまいます。

山野草は信頼できる山野草店から入手しましょう。

# ショウジョウバカマ 猩々袴 (シュロソウ科 旧ユリ科 多年草)

- 学名：*Helonias orientalis*
- 分布：北海道～九州，朝鮮半島・サハリン
- 花期：3～4月
- 京都府 RD\*：記載なし
- 環境省 RD：記載なし

※ レッドデータブック(以下[RD]という。)



ショウジョウバカマは早春の雪解けと共に花を咲かせます。別名に「かんざしばな」があり，花茎の先に咲く花は花簪はなかんざしのような姿をしています。

ショウジョウバカマの名前の由来は，中国の古典に登場する靈獣“猩々”しょうじょうからきており，葉は袴が広がる様子を見立てたといわれています。さながら，能楽の演目「猩々乱しょうじょうみだれ」\*に登場する，袴を履いた猩々のような姿をしています。

## ※●演目「猩々乱」しょうじょうみだれ

揚子江の里山に住む親孝行な男が，夢のお告げによって酒を売る商売を始めたところ大繁盛した。そこへ日頃からよく来る客が，酒を飲んでも顔色が変わらない事を不思議に思って聞くと海中に住む猩々だという。後日会いに行くと，これに喜んだ猩々が酒に酔って踊り舞い，お礼に汲めども尽きぬ酒の壺を男にくれたという。お正月などのおめでたい祝言物として演じられる演目。

“猩々”は，中国の潯陽江しんようこう（現在の九江の古名）にある長江（揚子江）が舞台となっています。その昔，上海から長江を遡る船便が停泊する港町はたいへん賑わっていました。長江の河岸には，古い潯陽楼しんようろうという赤い外壁で三階建の楼閣がありました。楼上からの長江の眺めは雄大で，白居易，蘇東坡らが詩に詠んだ場所としても良く知られています。また，中国美学や庭園文化に大きな影響を与えた詩人陶淵明とうえんめいの故郷の地である廬山ろざんも近く，川と湖の景勝地，三大お茶市の一つでもあり，人・物流が盛んな地であったことがうかがえます。



「猩々」

【出展】「和漢三才図四十卷寓類，憐類」  
(国立国会図書館蔵)

## 生命力あふれ、極めて鮮やかな赤を表す“猩々緋”

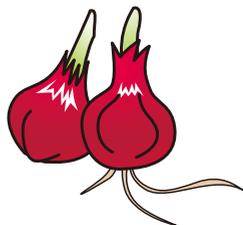
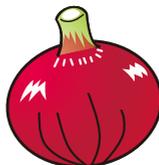
“猩々”とは、想像上の生き物で、現在の中国では妖怪や大酒飲み、オランウータンを表し、その印象は日本のものとは異なっているようです。日本で“猩々”は福を呼ぶものであり、厄除け人形や、日本全国の祭りでは猩々音頭や猩々の練り歩きなどとして残っています。現代においても日本独自の意味を持ち、玉ねぎ、ニワトリ、金魚、サボテン、ポインセチア、エビ、トンボ、ハエなど、いずれも頭頂部や目が鮮やかで赤みを帯びた特徴のあるものに“ショウジョウ”の名が用いられていることは興味深いことです。

赤を表す言葉は、古くは緋のほかに紅<sup>べに</sup>、朱<sup>しゆ</sup>、弁柄<sup>べんがら</sup>、茜<sup>あかね</sup>、蘇芳<sup>すおう</sup>などがあります。当時希少な舶来の絨毯などに使われた深紅色の羅紗地は“猩々緋”と呼ばれ、武将たちが競って陣羽織に用いました。

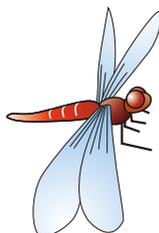
ショウジョウバエ(ハエ)  
※目が赤い特徴



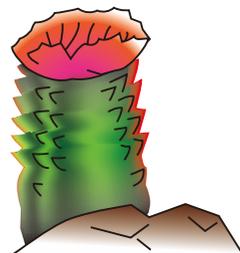
ショウジョウ赤(玉ねぎ)



猩々木(ポインセチア)



ショウジョウトンボ(トンボ)



ショウジョウ丸(サボテン)

## 京都の中京区に残る“猩々町”酒と猩々

三条通と六角通の間の小川<sup>おがわ</sup>通沿いに“猩々町”という町名が現在も残っています。江戸時代の古地図に、「せうじやう酒や丁」という名が記され、猩々町の名前の由来は、この辺りに酒屋があったことからといわれています。小川通の上立売通から一条通の間は1960年代半ばまで、「小川<sup>こがわ</sup>」という川が流れており、古くから小川通沿いの井戸は水が良いとされていました。

【引用・参考文献】玉冬蘭「能における「中国」」東方書店、2005、高馬三良「山海経—中国古代の神話世界」平凡社、1994、

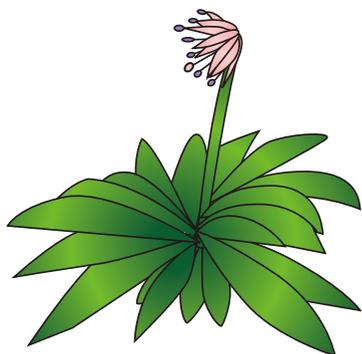
高野澄「京都魅惑の町名」PHP研究所、2009、「京都地名語源辞典」東京道出版、2013、「京都大辞典」淡交社、1984

## ショウジョウバカマの特性

ショウジョウバカマは山沿いの小川の縁や、湿った林床の斜面、日当たりの良い、やや湿った草原などに自生しています。常緑の多年草で、冬にはロゼット状の葉が紅葉して凍結するのを防ぎます。春に新しい葉が展開し、葉の中央から出た主軸の頂芽に花が5～10輪咲き、たくさんの種を作ります。

花は、早春の昆虫が少ない頃に咲くため、昆虫を引き寄せる仕組みをいくつか持っています。花を茎の先端に目立つように付けることや、盃状の小さな花を一齐に開かせることで昆虫を呼び寄せます。また、ハチのような小型のものからチョウなど大型のものまで、楽に吸蜜できるような花の形をしているのもその仕組みの一つです。

【引用・参考文献】「植物の世界-草本編(下)」ニュートンプレス, 2001, 渡辺静夫「園芸植物大事典」小学館, 1994



### ◆栽培

#### 【日頃の手入れと水やり】

春先は日当りを良くし、夏場は土が乾いてしまわないよう日陰に置き、水切れに注意します。比較の日陰でも丈夫で簡単に育てることができます。春から秋は1日1回の水やりとし、冬場は5～6日に1回に控えます。

#### 【用土】

土質はあまり選ばず、山野草の栽培に使われる土でもかまいません。水ゴケのみでも育ちます。

#### 【殖やし方】

株分けで殖やすことができます。10～11月頃に絡んだ根をほぐして分けます。葉先端に小さな株が生まれることもあります。



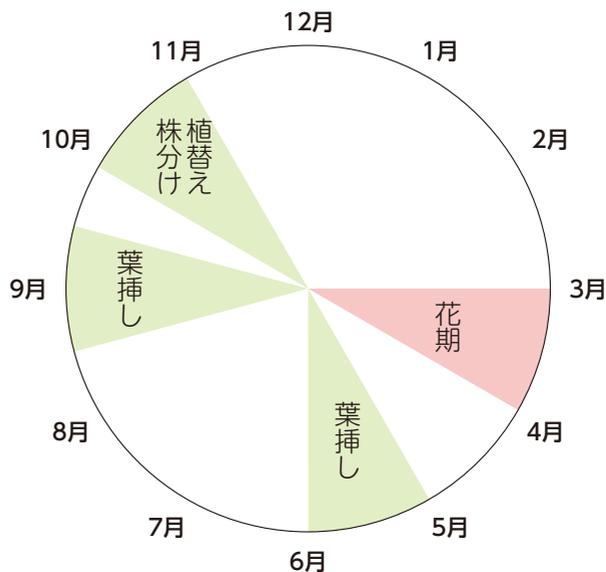
2月上旬, 冬に紅葉したロゼット葉。中央から放射状に葉が広がる。中央には新芽が出てきている。

## 栽培スケジュール

### 【葉挿しの方法】

株分けのほかに、葉挿しでも殖やすことができます。

葉挿しにした地際や葉の中心部からも芽が出てきます。



40年くらい前は京都近辺でどこでも見れたし、京都の庭やら池のへりなんかによく植えられてたけど、今はあらへんねえ。

## ショウジョウバカマ 京の口伝

丈夫やから、どないしたって（少々乱暴に扱っても）育てられる。山野草初心者のひとに、ええやろねえ。



## クリンソウ 九輪草 (サクラソウ科 多年草)

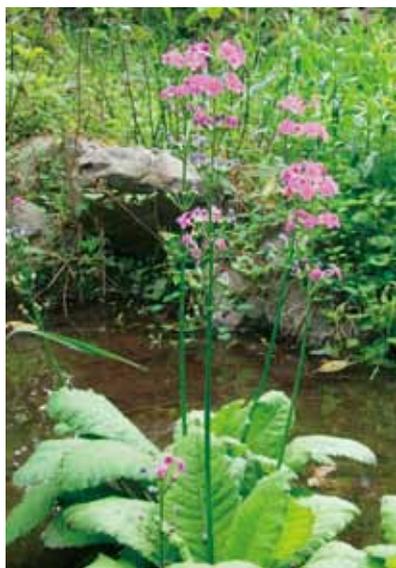
- 学名：*Primula japonica*
- 分布：北海道・本州・四国，台湾
- 花期：4～5月
- 京都府 RD：準絶滅危惧種
- 環境省 RD：記載なし

「目に触れた日本の植物の中で一番美しかった…」

江戸時代後期に鎖国の門が一時解かれた1860年～1861年にかけて、日本を訪れたイギリス人植物学者ロバート・フォーチュンは、クリンソウを見て「サクラソウの女王」とも称賛し日記に残しています。後世にヨーロッパで品種改良され、人気を誇っています。クリンソウは湿り気のある環境を好み、山野の小川や湿地に自生します。栽培の最も古い記録には、室町時代の1478（文明10）年、奈良の興福寺大乗院の僧侶が記した「大乗院寺社雑事記」に登場し、“宝幢花”と呼ばれ、庭で楽しまれていたことが分かります。クリンソウのほかに、シャクナゲ、スミレ、カキツバタなど庭に植えて楽しまれていたようです。

ほかにも、1491年に山科家の家司である大澤久守が記した「山科家礼記」では、武家へサクラソウの苗やホウトウゲの種子を進呈したことが記述され、共に古くから親しまれていたことがうかがえます。

【引用・参考文献】竹岡泰通「桜草栽培の歴史」  
p12-13,創英社/三省堂書店,2014



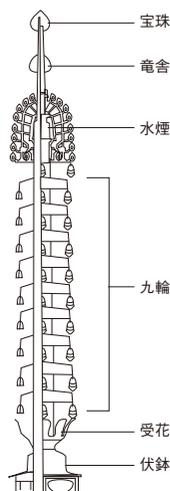
保全栽培するため、梅小路公園いのちの森に植栽されたクリンソウ(2015年4月下旬)

## クリンソウ 名前の由来

クリンソウの呼び名は、古くは先に挙げた宝幢花<sup>ほうとうげ</sup>のほかに、七重草<sup>ななじゅうそう</sup>、七階草<sup>ななかいそう</sup>、九連草<sup>くれんそう</sup>、保童花<sup>ほうとうぼな</sup>などがあります。クリンソウの花は、茎を軸にして何段もの輪のように咲き、その様子が寺院の五重の塔の頂上に設置される相輪の一部「九輪」に似ていることから九輪草と呼ばれています。

京都市内には、仁和寺、東寺、法観寺、醍醐寺の4寺院に五重の塔があり相輪が添えられています。

ちなみに、平安時代の末期に書かれたとされる庭づくりの極意書「作庭記」に、庭師らが五重の塔の九輪の高さと京都の地形の高低差を見極めながら、流れや滝を築造していたことが書かれています。



五重の塔相輪

## 京都市内で見られるクリンソウ

京都市内では、沢沿いの農家のほかクリンソウを保全している寺院などもあります。

### ●大原の里近くの古知谷阿弥陀寺<sup>こちだにあみだじ</sup>(左京区大原)

古知谷阿弥陀寺は、1609年(慶長14)に弾誓上人<sup>たんげい</sup>が念仏道場として創建したお寺です。境内に沢が流れており、春になるとクリンソウで埋め尽くされます。以前から自生していた株を約20年前に御住職が株分けして殖やし、現在は400株程度の群落となっています。



古知谷阿弥陀寺のクリンソウ

## クリンソウの特性

クリンソウは、日当たりの良い山地の湿地や河川敷に群生します。花は通常4～5段に咲きます。中には草丈が1m以上になり、10段以上に花が輪生する大型種があります。

京都府 RD では、2002年版で絶滅危惧種でしたが、2015年版に準絶滅危惧種へとランクを下げました。クリンソウはシカが食べない植物であるため、増加する傾向にあることがその理由とされています。



(撮影:秦賢二さん)

### ◆栽培

#### 【日頃の手入れと水やり】

西日の当たらない半日陰で風通しの良い場所で育てます。谷川の岸辺のような湿地を好む植物で、乾燥や水切れには十分に注意します。

春～秋の生育期は土の表面が乾いたら、たっぷり水を与えるようにします。冬の休眠中にも極端に乾かさないように注意し、直射日光を避けて、風通しの良い場所を選びましょう。

#### 【用土】

土質はあまり選びませんが、川沿いの泥混じりのような砂が良いです。

#### 【殖やし方】

株分けや採り播きで簡単に殖やすことができます。

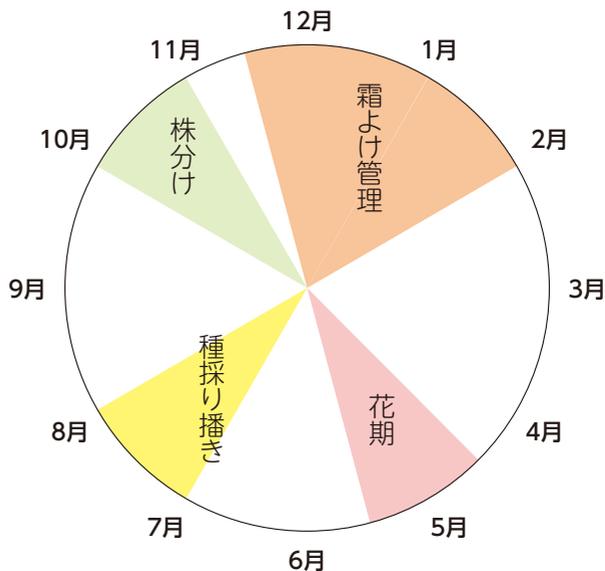
種子の収穫時期が遅れてしまうと細かな種子は落下してしまうので注意します。

播種後2年間は、直接霜に当たらない場所に置くことや、用土を凍らせないような工夫が必要です。

#### 【病害虫】

春以降にヨトウムシなど葉を食べる害虫が発生します。

## 栽培スケジュール



花芽が出始めた様子



龍の小屋（愛宕山）を管理しているおじさんが、首無地藏近くの自生地を保全したはるよ。

## く でん クリンソウ京の口伝

花はきれいやけど、ダイコンみたいな葉やな。  
昔は農家が楽しみとして植えてたんよ。



## カキツバタ 杜若 (アヤメ科)

日本、朝鮮半島、中国大陸（東北部）、シベリアなどの湿地に自生する多年草。花期5～6月、和名は「書付け花」の転訛<sup>てんか</sup>で、この花の汁を布にこすりつけて染めた行事があったことによるもの。また、観賞用の花として多く品種改良されています。



### ●演目「杜若」

旅先で僧侶が沢辺に咲く杜若を愛でていると、女に姿を変えた杜若の精が現れる。女は在原業平の「かきつばた」の五文字を和歌にしたため、「業平は神仏の化身であった。自分は非情の草木だが、おかげで成仏できた」と夜通し舞いながら消えていった。「伊勢物語」の主人公業平と成就できなかった女が精霊となって舞う哀恋の物語。

# お能に登場する植物



能楽の演目は、誰もが理解できるように、また、文学を広く知ってもらえるように古典の物語からも多く題材を取り入れて構成されています。良く知られた演目は、ストーリーもさることながら、登場する植物や植物が生育する風景、季節感、その場の情景についても、誰もが共有できるものだったのでしょうか。ここでは、そうした能楽に登場するいくつかの植物と共に、演目のストーリーやそれらの植物と暮らしの関係について御紹介します。

## ユウガオ 夕顔 (ウリ科)

北アフリカ原産。古くから食用などに利用されており、古代文明の墓や遺跡から種子が出土しています。日本では、源氏物語や徒然草にカンピョウ（ユウガオの果実）を加工して容器を作るために栽培したことが記されています。夕方に大きな白い花を咲かせます。観賞用のヨルガオ（ヒルガオ科）も通称でユウガオと呼ばれますが、熱帯アメリカ原産で明治初めに渡来しました。

### ●演目「夕顔」<sup>はじとみ</sup>「半部」

ある日、光源氏が、五条辺りで夕顔の白い花が咲く家に目をとめる。この家に住んでいたのが夕顔上。次第にこの家に通うようになった源氏の枕元に、嫉妬した六条御息所の生霊が現れ、目を覚ますと夕顔上は息絶えていた。後に夕顔は、白い花ユウガオの霊となって紫野の僧の夢に現れ、在りし日の源氏との思い出を語り舞う。「源氏物語」の夕顔の巻。

## トクサ 木賊 (トクサ科)

シダ植物で、日本の中部地方以北から北海道の湿地や川岸などを生育地としながら、乾燥にも強い特性があります。葉を煮て乾燥させたものは、研磨材や漢方薬として利用されています。かつては、南丹市園部町が産地として知られていました。



木賊兎

### ●演目「木賊」

若き頃、親に背いて出家した僧が、ある日訪ねた宿で木賊を刈る翁と出会い、生き別れになった子への愛憎を募らせた翁の舞いを見た。僧は自分こそ、その息子だと気付き名乗り出る。月見の名所である園原で親子の再会を果たすという世阿弥作の謡曲。絵画や工芸品に描かれる木賊兎は、木賊と園原の月、月から連想させる兎が謡曲の場面をほうふつさせる絵柄となり伝わっている。

## キク 菊 (キク科)

キク (イエギク) は天平時代 (729 ~ 794) の頃に、中国から宮中にもたらされたものといわれています。中国では陶淵明 (365 ~ 427) の詩「飲酒」に、「秋菊の佳色有り、露に裊いて英を撥る、此の忘憂の物 (酒) に泛べて我が世を遺るるの情を遠くす…」とあり、酒と菊を楽しみ過ごす様子がかがえます。唐の時代 (618 ~ 907) に多くの品種の栽培が盛んになり、イエギクの元が生まれたといわれています。重陽の節句 (9月9日) に菊の香りを移した菊酒で邪気を祓って長寿を願う中国の風習が日本に伝わり、平安時代に宮中行事となりました。その後、室町から江戸時代には、神社や庶民の間に宮中の行事が引き継がれ、菊の夜露を綿に集め体を拭く風習 (菊の着せ綿、菊花の料理、菊合わせ (品評会) などに受け継がれています。



### ●演目「菊慈童」「枕慈童」

はるか遠い昔、帝に仕えたという慈童が、かつて帝から仏徳を記した枕を授かったという。菊の葉に書き写すと、葉の露の水が薬水となり、そしてその薬水を飲み不老不死となったのだと、菊が咲く深い山奥で出会った後世の帝の臣下に語る。

菊と長寿に関する祝言物。祇園祭の「菊水鉾」は菊慈童をモチーフにしており、稚児人形は能装束の舞姿をしている。

【引用・参考文献】麓次郎「四季の花事典」八坂書房(1999)

## オミナエシ 女郎花(スイカズラ科 旧オミナエシ科 多年草)

- 学名：*Patrinia scabiosaeifolia*
- 分布：北海道～九州，朝鮮半島・中国大陸・シベリア東部
- 花期：8～10月
- 京都府 RD：準絶滅危惧種
- 環境省 RD：記載なし

秋の七草（ハギ，ススキ，ナデシコ，朝顔（キキョウ），クズ，フジバカマ，オミナエシ）の多くは，7月下旬から8月末に花期を迎えます。元来，七夕（7月末～8月の新月）には秋の七草などの生花を飾る習慣があり，宮中からはじまった七夕の立花会でも盛んに生けられました。平安時代の寝殿造の庭園にも，流れのほとりにキキョウと共に秋の七草の一つであるオミナエシが植<sup>ほんぼな</sup>えられていました。

このオミナエシは盆花の代表格で，生産が盛んな右京区嵯峨越畑地区では，切花用に出荷される前の鮮やかな黄色のつぼみや花が7～8月に見頃となります。

また，能楽の演目「女郎花<sup>おみなえし</sup>※」は，石清水八幡宮がある男山（現八幡市）を舞台として描かれています。



梅小路公園「和の花」展  
京都自生のオミナエシ

### ※●演目「女郎花」

契りを交わした男に裏切られ女が身を投げた後，河原に女郎花が咲いたとのこと。その河原に男が行くと女郎花の花は背を向けた。男はその女の悲しみの深さに気づき，同じく身を投げた。

（各演目のあらすじは流派などにより様々なバリエーションがありますが，ここでは代表的なものを取り上げています。）

## かさねのいろめ

着物の配色デザインには、季節ごとに見られる草花の色を組み合わせるに身をつける“かさねのいろめ”という楽しみ方があります。いろめの名前には、それぞれ草花などの名前が付けられています。オミナエシは秋のいろめとして用いられます。

### ～いろめの名前～

春は、梅、柳、桜、堇、躑躅、藤、山吹、牡丹など。夏は、空木、杜若、菖蒲、葵、蓬、百合、撫子、薔薇、桔梗など。秋は、女郎花、萩、紫苑、紅葉、朽ち葉、菊など、特に移ろいゆく様子を色に止めた配色。冬は、枯色、苔、氷、雪、椿など。

【引用・参考文献】仙石宗久「十二単の話-現代の皇室の装い」婦女子界出版社、(1995)

## 女郎花のかさね

表地に花やつぼみの明るい緑を帯びた黄色を、裏地に葉や茎の青緑色を用いることで、オミナエシを表現しています。花期は8～10月ですが、少し手前の季節の6～8月にかけて用いられます。



## “踏舞する草-タップカル・キナ”

オミナエシは日本全土に分布しており、古くから各地で利活用された記録や歌が残っています。和名の別名にはオミナメシ、アワバナなどがあり食用にもなりました。北海道の十勝地方などでは、アイヌ語でオミナエシに“踏舞する・草”という意味の名が付けられています。オミナエシの花が咲く様子を、アイヌの古式舞踊で両手を広げて踏舞をする姿や広がるスカートに見立てたものといわれています。

古くから生薬として、根や全草は敗醬根、黄花竜牙と呼ばれ利用されてきました。オミナエシには地域性の変異もあり、能登半島の海岸部には、矮性で葉質が厚い変種ハマオミナエシがあります。園芸品種では、葉に斑が入る‘フイリオミナエシ’、矮性の‘タマガワオミナエシ’、6月頃から花が咲く‘ハヤザキオミナエシ’などがあります。



## オミナエシの特性

オミナエシは、日当たりの良い草原などに自生している多年草です。草丈は1 m以上になり上部で枝分かかれし、枝先に黄色の粟粒のような小花が咲きます。播種から花が咲くまでには3年ほどかかります。オミナエシは、歌や物語から女性的なイメージで捉えられています。また、近縁種で、同じく日当たりの良い山野や草原に自生している多年草のオトコエシがあります。茎や葉にも多くの毛が生えており、花期も同じく8～10月頃で花の色は白色です。

【引用・参考文献】麓次郎「四季の花事典」p.306-311、八坂書房、1999関西実生連絡会編「山野草 タネのまき方・育て方」p.25、柘の葉書房、2006

### ◆栽培

#### 【日頃の手入れと水やり】

日当たりの良い場所を好みます。ただし、土が乾きすぎると生育に支障をきたしますので強烈な西日の当たる場所は避けます。

#### 【用土・殖やし方】

土質はあまり選びませんが、鉢植えの場合は、鉢の中が根で一杯になり根詰まりを起こしやすいので、できれば毎年植え替えます。鉢から抜いた株は、根の先を1/3程切り詰めてから新しい用土で植え替えます。根を切り詰めるのは水や肥料をよく吸う新しい根の発生を促すためです。植え替えの適期は3月頃です。地植えではこぼれ種でもよく殖えます。

#### 【病害虫】 特にありません



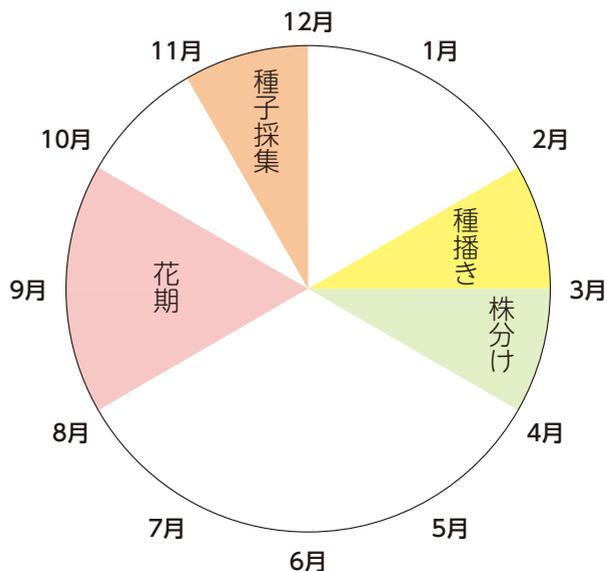
育てるのは非常に簡単ですよ。兼好法師も徒然草(139段)で庭に植える草はオミナエシがよろしいというたはる。ハナアブ、ハナバチ、蝶など昆虫がいっぱい来るで。

## オミナエシ京の口伝<sup>く でん</sup>

切り花にしたら、水がえらい(ひどい)においになるけども、毎日水を替えたげるとちよつとはましやよ。



# 栽培スケジュール



オトコエシ (撮影: 秦賢二さん)

## オミナエシと組み合わせる宿根草ガーデン(例)



シュウメイギク, ワレモコウ, オオデマリ, ダリア, リアトリス, ノゲイトウ, ススキ, ミューレンベルギア・カピラリス, ペニセタム, 三尺バーベナ

# 京都の企業が生物多様性と和の

「京都市生物多様性プラン」(平成26(2014)年3月策定)に基づき、様々な団体による生物多様性保全の取組が広がっています。ここでは、プランに基づく「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト」(以下「再生プロジェクト」という。)の認定を受けた京都の企業による和の花保全活動の例を紹介します。(京都市都市緑化協会はこれらの活動への協力・支援を行っています。)

## ● KESエコロジカルネットワークプロジェクト 96事業所に

京都・環境マネジメントシステム・スタンダード(KES)の登録企業・団体が取り組む「KES エコロジカルネットワークプロジェクト」が、開始から2年目の平成27(2015)年度で96事業所に広がりました。

京都市内の自生株に由来する、フタバアオイ(二葉葵)、フジバカマ(藤袴)、ヒオウギ(檜扇)、キクタニギク(菊溪菊)の生息域外保全<sup>\*</sup>に取り組み、京都の歴史や文化とつながりが深い和の花を守る大切さを社内・社外に発信されています。

平成28(2016)年度は、生息域外保全にオミナエシ、カワラナデシコを加えるほか、自社緑化や社外での生物多様性保全活動にも取り組まれる予定です。

<sup>\*</sup>環境の変化や採集など様々な要因により、生息地では存続が困難となった生物(種、個体群など)を生息地以外の場所で緊急避難的に飼育・栽培し保全すること

## ◆ KES エコロジカルネットワークプロジェクト構成団体

京のアジェンダ21フォーラム、特定非営利活動法人 KES 環境機構、公益財団法人京都市都市緑化協会、京都駅ビル開発株式会社、京都市



2015年度参加企業の分布  
(Google マップ)



育成講習会



社内でも啓発



育てたフタバアオイ  
を上賀茂神社に返納



フジバカマの展示  
(梅小路公園朱雀の庭)



キクタニギクの展示  
(京都駅ビル緑水歩廊)

# 花保全に取り組んでいます

## 生物多様性に配慮した工場緑化

### ●日新電機株式会社(京都市右京区)

日新電機は、受変電設備や太陽光発電システムなどを製造・販売する電気機器メーカーです。本社では、建物の耐震補強工事に伴い、生物多様性に配慮した緑化を推進することとされました。この取組に当たり、工場棟の周囲(約150m<sup>2</sup>)において、「再生プロジェクト」(第2号認定)による専門家の意見を踏まえ、日照や建屋の排熱設備などの条件を考慮した緑化計画を作成されました。本計画に基づき、緑地には、計40種以上の京都ゆかりの和の花や里山に見られる樹木などが植栽されるとともに、雨水を有効利用するための小さな凹凸地形(「雨庭」)を設けるなどの工夫も施されました。平成27(2015)年6月の緑地の完成以降、これらの四季を彩る花は、社員や訪問客の関心を呼んでいます。同社は、引き続き、別棟でも生物多様性に配慮した緑化に取り組まれる予定です。



建屋を囲むように緑化



カワラナデシコとヒオウギ  
(2015年9月)

(施工:株式会社大平造園/基本計画協力:京都市・京都市都市緑化協会)

### ●三菱自動車工業株式会社パワートレイン製作所(京都市右京区)

三菱自動車工業パワートレイン製作所は、自動車のエンジンを製造する工場です。自社の「生物多様性保全基本方針」に基づく生物多様性保全活動の一環として、京都ゆかりの和の花を敷地内で保全することとされました。この取組は、敷地内の「憩いの広場」の一角(約30m<sup>2</sup>)を利用するもので、「再生プロジェクト」(第9号認定)による専門家の意見を踏まえ、フタバアオイ、ヒオウギ、フジバカマを保全する植物として選定されました。これらの植栽に先立ち、土壌改良及び地形の造成が行われ、その後、平成27(2015)年12月に、特定非営利活動法人「葵プロジェクト」などの指導の下、30人以上の社員により植付けが行われました。この取組を通じて殖やしたフタバアオイは、上賀茂神社に返納(奉納)することを目指されており、また、更に多くの和の花を植えられていく予定です。



植付け作業を行う社員

(施工:中村清草園/基本計画協力:京都市・京都市都市緑化協会)

## MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

平成28年3月発行 京都市印刷物 第273251号

発行 ―― 京都市環境政策局環境企画部環境管理課

制作 ―― 第1章 京都市環境政策局環境企画部環境管理課

第2章 公益財団法人京都市都市緑化協会

『和の花を育てる3』取材協力（50音順）

京都駅ビル開発株式会社／京都府環境部 自然環境保全課／特定非営利活動法人KES環境機構／日新電機株式会社／三菱自動車工業株式会社パワートレイン製作所／京のアジェンダ21 フォーラム／藤井肇さん（大原野森林公園・森の案内人）／秦賢二さん（園芸愛好家）／百生太亮さん（京都学園大学大学院生）



この印刷物が不要になれば  
「雑がみ」として古紙回収等へ！



この印刷物は、再生紙を使用しています。